

(様式 3)

政務活動（参加・実施）報告書

令和 6 年 1 1 月 2 1 日

会 派 新緑

参 加 者 金澤 俊

政務活動先 (目的地)	京都市				
開催団体等	京都市教育委員会				
政務活動期間	令和 6 年 9 月 1 9 日 (木) ～ 9 月 2 0 日 (金)			2 日間	
政務活動項目 (名称等)	京都市立洛風中学校と京都市立洛友中学校の見学				
政務活動参加者	金澤 俊				
					計 1 名
全体参加者数	1 0 名				
政務活動の目的・結果等の概要・所見	来年度に向け、当初予算に「校内教育支援センター」の全小中学校の設置を実現すべく議会議論を行っている。 苫小牧市においても増加し続ける「不登校」。学校に行けない子どもたちの現状を踏まえ、文部科学省も様々な不登校対策の補助メニューを用意している。 その中のひとつが、「学びの多様化学校（不登校特例校）」である。今年度、仙台市の「ろりぽっぷ小学校」を視察したことは報告済みであるが、同校は民間の事業者が運営している学校だった。 今回は、全国的にも先進事例として注目されている京都の「洛風中学校」と「洛友中学校」を視察した。 今回お会いした洛友中学校の間野郁夫校長は、1 0 月 2 9 日に苫小牧市教育委員会主催で開催される講演会の講師をおつとめ頂くこととなっている。 さて、今回視察した中学校は両校とも京都市の中心部に位置しており、廃校となった学校を利活用していたが、場所も不登校の子どもたちが通しやすい位置を考えているとのことであった。 非常に大事な視点である。 洛風中学校は、定員 4 0 名程度で、転入学については、希望制ではなく「学年等生徒の状況を総合的に判断して」決定されているのが特徴である。 転入学の手続きもしっかりと手続きを踏んで進めることとなっており、まずは不登校相談支援センターにて面談や活動を経た後、授				

	業体験と体験入学を行って入学となる。 不登校特例校は全般にそうだが、生徒にあわせた独自の教育カリキュラムを用いており、授業日数的には一般校に比較して8割程度。また、学校行事も非常に多岐にわたっており、課外活動も多く取り入れられている。 在籍する子どもたちの進路については、様々で高校、専門学校などに進学する子が多いとのことだった。 洛友中学校の視察では、間野校長自ら説明をして頂いた。 洛友中学校は、洛風中学校と違い、昼間部と夜間部の二部学級制をとっている。 これは、不登校による転入学生徒に加え、様々な理由により義務教育を修了できなかった方や不登校等でほとんど学校に通えなかった方、あるいは本国で義務教育を修了していない外国人の方などが通っている。 私が伺った際も、昼間部と夜間部の合同学習の時間にたまたま立ち会ったが、ボランティア（同校のOGで現在大学生）の方も含め、年齢も世代も国も違う生徒さんが和気あいあいと学びの機会を共有している風景は実に素晴らしいものがあった。 皆楽しく、そこにいる人同士が尊重しあっていることを実感した。ただ、間野校長によれば、「洛友中学校に来たからといって不登校がすぐになおるわけではなく、日々不登校生徒の個々の課題に向き合う毎日だ。」とのこと。 大事なことは、不登校の子たちにひとつでも多くの選択肢を用意してあげることではないか。 今回の視察を通じて、強くそのことを思う。 校内教育支援センターの設置も含めて、不登校特例校の設置により、不登校に悩む子どもたちの居場所や前に進む機会をつくること、これからの苦小牧に必要であると思う。
資料名（会派保管）	「京都市立洛友中学校」他

会派内回覧								
-------	---	---	---	---	--	---	---	--